



金属工事及びガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. 鉄筋コンクリート造の建築物において、**アルミニウム製笠木**の取付けに用いる固定金具については、防水層が施工されたパラペット天端に、あと施工アンカーにより堅固に取り付けた。 **金属**
- 2. **軽鉄鉄骨天井下地**において、天井裏に通るダクトにより天井用のつりボルトの適切な間隔を確保できない箇所については、ダクトフランジに天井用のつりボルトを取り付けた。 **X軽鉄**
- 3. 熱線反射ガラスの清掃は、ガラス表面の反射膜を傷つけないように、軟らかいゴムを用いて水洗いとした。 **ガラス**
- 4. **ガラス工事**において、グレイジングチャンネル構法によるガラスの取付けには、セッティングブロックを使用しなかった。 **ガラス**

金属工事及びガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **軽鉄鉄骨壁下地**において、床ランナー下端から上部ランナー上端までの高さが2,700mmの壁下地に設ける振れ止めについては、床ランナー下端から1,200mmの位置に設け、床ランナー下端から2,400mmの位置は省略した。 **軽鉄**
- 2. **軽鉄鉄骨天井下地**において、野縁については、野縁受から180mmはね出した。 **X軽鉄**
- 3. **ガラス工事**において、アルミニウム製の引違い戸の単板ガラスのはめ込みには、グレイジングチャンネルを使用した。 **ガラス**
- 4. **ガラス工事**において、ガラスが破損すると破片が落下する危険性が高いトップライトには、**合わせガラス**を使用した。 **ガラス**

金属工事及びガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **軽鉄鉄骨壁下地**において、スタッドの間隔については、特記がなかったため、ボード2枚張りとする箇所を450mm程度、ボード1枚張りとする箇所を300mm程度とした。 **軽鉄**
- 2. **軽鉄鉄骨天井下地**において、野縁及び野縁受は、特記がなかったため、屋内を25形、屋外を19形とした。 **X軽鉄**
- 3. 外部に面する**網入り板ガラス**の「下辺小口」及び「縦小口下端から1/4の高さまでの部分」には、ガラス用防錆塗料を用いて防錆処置を行った。 **ガラス**
- 4. **ガラスブロック積み工法**において、**伸縮調整目地**については、特記がなかったため、**6m以内ごとに幅20mm程度**のものを設けた。 **ガラス**

ガラス工事及び金属工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **ガラス工事**において、**グレイジングチャンネル**構法によりサッシにガラスをはめ込んだので、**セッティングブロック**を使用しなかった。 **ガラス**
- 2. 化粧せつこうボード張りの**軽鉄鉄骨天井下地**において、吊りボルトの間隔については**990mm程度**とし、**天井の周辺部の吊りボルト**については端から**200mm**の位置に配置した。 **X軽鉄**
- 3. **軽鉄鉄骨壁下地**の**スペーサー**については、スタッドの両端及び振れ止めの位置を揃え、**間隔600mm程度**に取り付けた。 **軽鉄**
- 4. **鋼製の手摺**の取付けに当たって、手摺の支柱については、コンクリート及びモルタルの中に入る部分であっても、**錆止めの処置**を行った。 **金属**

ガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **はめ込み構法**において、ガラス小口とはめ込み溝の底との間には、**地震時に建具枠が変形したときの接触を防ぐために、セッティングブロック**を用いて**エッジクリアランス**を設けた。 **ガラス**
- 2. **DPG構法**において、室内に使用するガラスへの丸穴あけ加工については、特記がなかったため、穴の外周からガラスエッジまでの距離を、**30mm以上、かつ、穴の直径以上**とした。 **ガラス**
- 3. 引違い窓の**セッティングブロック**は、**フロート板ガラス**の両端部からガラス幅の**1/4**の位置に設置した。 **ガラス**
- 4. 外部に面する**複層ガラス**の取付けにおいて、**グレイジングチャンネル**を用いた。 **Xガラス**

ガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. 外部に面する建具に**複層ガラス**を用いるはめ込み構法において、はめ込み溝内への水の浸入により、複層ガラスのシール材が劣化するおそれがあるので、下端のはめ込み溝内に有効な**水抜き孔**を設けた。 **ガラス**
- 2. **DPG構法**における**強化ガラス**において、点支持金物を取り付けて支持構造と連結するための点支持用孔については、**強化加工前に工場**で加工した。 **ガラス**
- 3. **高遮性能熱線反射ガラス**の清掃は、ガラス表面の反射膜を傷つけないように、**軟らかいゴムを用いて水洗い**とした。 **ガラス**
- 4. **グレイジングチャンネル**構法において、水密性・気密性を低下させないように、ガラスの四周に巻き付けたグレイジングチャンネルをガラス下辺中央部で突き合わせた。 **Xガラス**

ガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. サッシ枠が地震による面内変形を受けた場合に**ガラス**が割れないようにするため、**サッシ枠のはめ込み溝底とガラスエッジとの間に設けるエッジクリアランス**の寸法を確認した。 **ガラス**
- 2. **矩形でない形状の複層ガラス**については、2枚のガラスの複層加工を行った後、**ガラスの切欠き加工及び小口処理**を行う手順を、ガラス工事施工計画書にて確認した。 **Xガラス**
- 3. 外部に面する**網入り板ガラス**の小口部分に、**ガラス用防錆塗料又は防錆テープ**を用いて防錆処置を施し、発錆による割れを防止した。 **ガラス**
- 4. **ガラスの熱割れ防止対策**の検討のため、建築物の立地、**開口部の方位、ガラスの光特性・熱特性等により熱応力を算出し**、ガラスエッジの許容応力と比較した。 **ガラス**

金属工事及びガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **アルミニウム合金製の手摺**の取付けにおいて、温度差が40°Cの場合の部材伸縮の目安を**1m当たり1.0mm程度**として、伸縮調整部を所定の間隔で設けた。 **金属**
- 2. 鉄筋コンクリート造の躯体への**アルミニウム製の外壁サッシ**の取付けに当たって、**サッシ下部のモルタルを確実に充填**するために、**水切り板下部とサッシ下部のモルタル詰めを二度に分けて行った**。 **金属(建具)**
- 3. **アルミニウム製の外壁サッシ**において、引違い窓の**セッティングブロック**は、フロート板ガラスの両端部からガラスの横幅寸法の**1/4**の位置に設置した。 **ガラス**
- 4. 外壁サッシにはめ込まれた**板ガラスの熱割れを防止**するために、フロート板ガラスに比べて**日射吸収率の高い熱線吸収板ガラス**を用いた。 **Xガラス**

軽鉄鉄骨壁下地

- スタッドの間隔: ボード2枚張り: 450mm, ボード1枚張り: 300mm
- 切断する箇所を振れ止めと同材又は吊りボルトで補強する
- 床ランナー下端から1.2mごとに設ける振れ止め
- 野縁及び野縁受: 屋内: 19形, 屋外: 25形, 留付けクリップ
- つめの向き交互
- 吊りボルトの水平補強及び斜め補強: 天井のふところが1.5m以上
- 吊りボルトの間隔: 900mm程度, 周辺部: 端から150mm
- 高速カッターで切断した面: JISによる建築用鋼製下地材
- 亜鉛の犠牲防食作用
- 錆止めの処置を行う: コンクリート及びモルタルの中に入る部分
- 鋼材: 1m当たり0.5mm, アルミニウム合金: 1mm
- 伸縮調整部: 5~10mごと
- 水切り板下部: 二度に分けて、確実に!
- サッシ下部のモルタル充填

ガラス工法

- 網入り板ガラス: 防錆処置
- 合わせガラス: 雨水を排水
- 複層ガラス: 掛り代: 15mm以上, 複層加工後: 切欠き、小口処理、穴あけ加工は行わない
- 引違い窓のセッティングブロック: フロート板ガラスの両端部からガラスの横幅寸法の**1/4**の位置
- 熱割れ防止対策: 開口部の方位、ガラスの光特性・熱特性等 → 熱応力を算出, ガラスエッジの許容応力と比較
- 高遮性能熱線反射ガラス: 清掃: ガラス表面の反射膜を傷つけないよう, 軟らかいゴムを用いて水洗い
- ガラスブロック積み工法: 伸縮調整目地: 6m以内ごと; 幅20mm程度
- グレイジングチャンネル構法: セッティングブロックを使用しなかった
- はめ込み構法: 面内変形を受けた場合におけるガラスの割れの防止, エッジクリアランス: はめ込み溝底とガラスエッジとの間の寸法
- DPG構法: 地震による面内変形, 連結するための点支持用孔: 強化加工前に工場加工

金属工事及びガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **軽鉄鉄骨天井下地**において、天井のふところが1.5mであったので、吊りボルトの水平補強及び斜め補強に当たり、[-19x10x1.2(mm)]の鋼材を使用した。 **軽鉄**
- 2. **軽鉄鉄骨天井下地**において、野縁を野縁受に留め付ける留付けクリップのつめの向きについては、野縁受の溝に確実に折り曲げられるように、向きを揃えて留め付けた。 **X軽鉄**
- 3. 設計図書において、**強化ガラス**の指定があったが、自然破壊の危険性があるので、設計者、建築主、監理者、工事施工者等で協議して**合わせガラス仕様に変更**した。 **ガラス**
- 4. アルミニウム製建具への**フロート板ガラス**による複層ガラス(6mm+A6+6mm)のはめ込みに当たり、不定形シーリング材構法における**複層ガラスの掛り代**を、特記がなかったため、**15mm以上**確保した。 **ガラス**

金属工事及びガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1. **軽鉄鉄骨天井下地**において、JISによる建築用鋼製下地材を使用したため、高速カッターで切断した面には、**亜鉛の犠牲防食作用が期待できる**ことから、錆止め塗料塗りを省略した。 **軽鉄**
- 2. **ガラス工事**におけるガラスブロック積み工法において、伸縮調整目地については、特記がなかったため、**5mごとに幅15mm**とした。 **ガラス**
- 3. **軽鉄鉄骨壁下地**において、**振れ止め**については、JISによる建築用鋼製下地材を使用し、床ランナーから上部ランナーまでの高さが3,000mmであったため、床ランナー下端から1,500mmの位置に1段目の振れ止めを設けた。 **X軽鉄**
- 4. **はめ込み構法**による**ガラス工事**において、サッシ枠が地震による**面内変形を受けた場合におけるガラスの割れの防止**のため、サッシ枠四周の**エッジクリアランス**(はめ込み溝底とガラスエッジとの間の寸法)を確認した。 **ガラス**

金属工事及びガラス工事に関する記述において、監理者が一般に行うものとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

- 1. **軽鉄鉄骨壁下地**において、床ランナー下端から1.2mごとに設ける振れ止めを電気配管の敷設により**切断せざるを得なかった**ため、**切断する箇所を振れ止めと同材又は吊りボルト(外径9.0mm)**で補強する計画であることを確認した。 **軽鉄**
- 2. **軽鉄鉄骨天井下地**において、天井面に下がり壁による段違いがあったので、野縁受と同材又は山形鋼(L30x30x3(mm))を補強材に用いて、3.6m程度の間隔で斜め補強されていることを確認した。 **X軽鉄**
- 3. 屋外に設置する**鋼製の手摺**において、**温度差40°Cの場合の部材伸縮の目安を1m当たり0.5mm**として、**伸縮調整部が5~10mごとに設けられている**ことを確認した。 **金属**
- 4. 屋外に面する建具に**合わせガラス**を使用するに当たり、建具のガラス溝内に雨水が浸入した場合に雨水を排水するため、建具下枠のガラス溝に設ける**水抜き孔の直径が6mm以上**となっていることを確認した。 **ガラス**